

令和2年度宮城県介護予防に関する事業評価・市町村支援委員会 開催結果（書面開催）

1 開催日時

令和3年3月23日（火）

2 開催場所

書面開催

3 議事

（1）委員長及び副委員長の選任について

（2）令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業（旧名称：宮城県介護予防に関する事業評価・市町村支援事業）計画（案）について

4 報告

（1）介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況（平成28年度から令和元年度実施分）に関する調査結果 市町村まとめ【暫定版】について

（2）令和2年度宮城県介護予防に関する事業評価・市町村支援事業の実施状況及び平成30年度から令和2年度までのまとめについて

5 出席者

別添資料（出席者名簿）のとおり

6 傍聴者

書面開催としたことから、開催案内をおこなっておりません。

7 会議開催結果

介護予防に関する事業評価・市町村支援委員会条例第4条第2項の規定により委員の半数以上の出席が会議成立の要件となっており、13名の出席により、会議は有効に成立しています。

なお、松本啓伸委員におかれましては、一身上の都合により辞任届の提出があり、令和3年1月26日付けで委嘱が解かれております。

○ 議事（1）委員長及び副委員長の選任については、賛成13人、反対0人、欠席（未提出）1人、賛成多数で可決。

委員長 辻 一郎 委員

副委員長 出江 紳一 委員

○ 議事（2）令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業（旧名称：宮城県介護予防に関する事業評価・市町村支援事業）計画（案）については、賛成13人、反対0人、欠席（未提出）1人、賛成多数で可決。

○ 委員から審議をいただいたところ、以下のとおり意見がありました。今回いただきました意見を踏まえ、令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業でさらなる推進を図って参ります。

<3議事（2）について>

委員氏名	意見・質問	意見に対する回答
出江委員	フレイル対策を重点化することは結構であると考えます。	—
阿部委員	地域ケア会議は、全市町村で実施され、通いの場の参加率も全国平均よりも高く、これまでの取り組みにより本事業を推進する下地はできていると思います。 今後、計画を実行に移していく上では、自治体、研究機関、職能団体だけでなく「地元医療機関等の」専門職の協力が必須かと思えます。コロナ禍においては、院外活動を制限されている専門職も多くいますので、一般県民のみならず、医療機関・施設の長・事務長等への普及啓発も是非進めていただければと思います。	御意見のとおり、地域の実情に応じた効果的な取組を推進するためには、地元医療機関等との連携は不可欠となります。令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業の中でさらなる推進を図って参ります。
大貫委員	コロナ禍で大変な事が多いですが、新しい事業が県民のために活かされる事を願っています。	—

人見委員	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル対策市町村サポートモデル事業は、これまでにない具体的な効果を期待できる施策として期待しております。 ・宮城県栄養士会様には、事務局をお引き受け頂いたことに感謝申し上げますとともに、この運営が会への過剰な負担にならないようにしなければならないと考えます。 ・人材育成や派遣をスムーズに行うためには、公文書（知事名等）によるしっかりした依頼を行い、出向きやすい環境を作ることが重要と考えます。 ・地域包括ケアシステムの目指す共生社会は、高齢者だけでなく、障害者や様々な年齢層も含むものと理解しております。ところが高齢者のみの視点となりがちです。障害者に対するフレイル予防は、高齢になってからではより重症度が高くなり回復が難しくなる可能性が高いと考えます。フレイル予防の視点から見逃しの無いようにしなければならないと思います。 ・年齢や障害の種別による縦割りの区分にならないよう地域全体と捉え、医療・介護の一体的な改革を推進するために、情報を共有し、宮城県全体で高齢社会を支える手立てを構築できるようになるのが理想と考えます。 ・支援委員会のメンバーですが、この図によると8団体の名称が記載されております。今後、医療・介護の一体化を鑑みると、訪問医療・介護・訪問歯科診療に直接関わる団体との連携や患者と病院・施設・在宅等を結ぶ専門職として医療ソーシャルワーカー協会等も巻き込む必要性を感じます。 ・多職種間での相互理解が大切です。特に医師・歯科医師間の協力関係が重要と考えます。コロナ禍での工夫が必要ですが、顔が見える関係をもう少し積極的に作れないものでしょうか。 	<p>人材育成や派遣をスムーズに行うための体制につきましては、引き続き検討して参ります。</p> <p>御意見のとおり、共生社会の実現においては、高齢者のみならず、障害者や様々な年齢層が含まれます。今後も引き続き、庁内連携を図り、推進して参ります。</p> <p>本委員会の委員構成につきましては、次期（令和4年度）改選に向けた御意見として参考にさせていただきます。</p> <p>御意見のとおり、多職種間の相互理解は必須となります。多職種における顔の見える関係構築につきましては、令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業の中でさらなる推進を図って参ります。</p>
加川委員	<p>今後の介護予防の事業評価のためにも、介護予防と保健事業の一体化やデータ分析についての身近な先進地（県内）の情報提供をお願いしたい。（後期高齢者広域連合を含む国保連と県栄養士会との連携について事例等）</p>	<p>令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業の中でさらなる推進を図って参ります。</p>

< 4 報告（1）（2）について

委員氏名	意見・質問	意見に対する回答
出江委員	着実に実施され、成果を挙げていると思われます。	—

安藤委員	地域アセスメントが重要と考えられるので、それぞれの地域の実情に合わせて、地域の力を最大にできるような支援のあり方に留意することが必要と考えます。	御意見のとおり、地域アセスメント、市町村における現状分析は、重要と考えております。令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業の中でさらなる推進を図って参ります。
山崎委員	拝読し、すべて了解しました。	—
轡委員	コロナで1年過ごし、こういった取組の重要性を痛感しているところです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。	—
阿部委員	地域リハ活動支援事業は、ケア会議への専門職派遣を中心に県が支援していただいておりますが、様々な使い方のできる事業だと思いますので、通いの場やその他の事業での好事例を市町村間で共有できる場や資料があると良いと思います。	令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業の中でさらなる推進を図って参ります。
大貫委員	各市町村の計画していた取り組みが予定通り実施できなかった事は残念です。対面でなくてもできる通いの場への支援や個別支援を作業療法士会として取り組んでいるところですが、多くの市町村でも高齢者の介護予防支援事業が予定通りに施行されますように願っています。	—
人見委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村別の通いの場の参加率の状況は、近年伸びはあるものの地域格差が存在します。やはり地域には様々な特色があり、抱えている問題や、住民の年齢層、価値観や要望等が様々であることが影響しているように感じます。生活支援コーディネーターとの連携で効果があったことから、同じ方策だけではなく、個別の問題点を積極的に拾い上げる必要性を感じます。 ・ 市町村の状況によって、行政職の採用枠に専門職を増やす必要を感じます。特に歯科衛生士は、歯科診療所勤務が90%以上であり、地域に行くほどそれも不足しており、通常の歯科診療を休み地域の介護や保健活動への協力を得ることは難しいのが現状です。歯科衛生士会としても、人材育成や派遣体制について、協力できるよう努力いたしますが、限られた人材で特に遠方への派遣となると、限界もあります。 ・ 職能団体の運営状況は様々で、広域的な支援に協力をしたくてもなかなか出来ない実情もあります。長寿社会政策課の皆様には、声をかけるだけではなく、職能団体の現状を理解し、個々 	<p>御意見のとおり、地域の実情に応じたきめ細やかな支援は重要と考えております。令和3年度宮城県地域包括ケア総合推進・支援事業の中でさらなる推進を図って参ります。</p> <p>各職能団体との連携につきましては、各団体の現状を理解し、さらなる連携強化を図って参ります。</p> <p>令和3年度宮城県フレイル対策市町村サポートモデル事業では、継続可能な市町村支援の体制構築を図って参ります。</p>

	<p>に対応した支援や人材確保に関わる御協力をお願いしたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染拡大で感染予防の制約のある中、御努力頂いたことに感謝いたします。そんな中で、一般県民への介護予防に関する普及啓発で、短期間で計画を立て、メディアを活用した啓発ができたことは、今後の活動への起点となると考えております。 ・ フレイル対策市町村サポートモデル事業は、今後の宮城県での介護予防への道筋を示すものとして、長期的に継続できるような頑固な地盤のシステム作りが必要だと思えます。 	
若生委員	<p>報告事項のまとめ、ご苦勞様でございます。</p>	—
加川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の自治体の取り組みが、どの程度なのか客観的に評価するために活用しています。 ・ 実施していると言っても事業内容の捉え方が、各自治体様々で参考になります。 ・ 自分の自治体の具体的な数値目標設定に役立ちます。 ・ 県の事業計画書や実施状況を表で見ることで、県の研修の狙いが改めて確認できました。 ・ これまで関連事業の研修にすべて参加させたくても業務の関係で参加者が制限されましたが、ウェビナー研修や DVD 研修になり多くの職員が研修に参加でき情報の共有が図られました。 ・ 専門職の方々のネットワークについて（各職能団体の活動状況）の情報があれば、当市の専門職の方との研修会などにも役立つのではないかと考えております。 ・ R3 年度の、この委員会開催時期が分かれば教えて頂きたいです。 	<p>研修会の開催を含め、情報の発信方法につきましては、今後も引き続き、検討して参ります。</p> <p>各職能団体の活動状況につきましては、今後把握に努め、情報発信について検討して参ります。</p> <p>令和3年度本委員会の開催時期は、令和4年1月から3月を予定しております。</p>